

投資事業評価調書(新規)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 河南 嘉彦 (高瀬 陽太郎)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 8)
------	-------------------	---------------------	----------------------	----	----------------------

事業種目	道 路	事 業 名	事 業 区 間	総事業費	約 4.7 億円 (うち用地補償費 0.03億円)
		(主)赤穂佐伯線(新雲津橋) 県単独事業	赤穂郡上郡町竹万 L = 2 4 0 m		

所 在 地	着工予定年度	完成予定年度
赤穂郡上郡町竹万	H 1 6 年度	H 1 8 年度

事 業 目 的	事 業 内 容 等
<p>本路線は、赤穂市から上郡町を経て岡山県和気郡佐伯町を結ぶ主要地方道で、上郡町内の竹万地区は幅員狭小でＪＲ山陽本線の踏切があり、交通の隘路となっている。</p> <p>そのため、当該地区において東西軸として(都)南部幹線が整備されているところであり、南北軸についても(都)竹万上郡線の一部が竹万土地区画整理事業により整備が進められているところである。</p> <p>以上のことから、これらの事業の進捗に合わせて(都)竹万上郡線の南に位置する新雲津橋を整備し、上郡駅を中心とした市街地の道路網を構築し、当該地区の円滑かつ安全な交通を確保するものである。</p>	<p>バイパス L = 240m (うち橋梁部 L = 63.6m 2 径間連続鋼鈑桁橋)</p> <p>現況：W=4.0(5.0)m：1車線 計画：W=6.0(11.0)m：2車線+片側自歩道3m</p> <p>交通量(台/日)：現況 1,925、計画 5,000</p>

評価視点	評価内容
(1)必要性 安全・安心の確保 暮らしと交流を支える道づくり 地域ニース	<ul style="list-style-type: none"> ・現道の周辺は、住宅が密集しており、現道拡幅等の改良が困難で、一部幅員が狭小で車両の離合が困難な箇所もあり、更に歩道も連続していない区間がある。現道からバイパスへの交通転換を図り、円滑な交通および安全な通行を確保する。 ・千種川と安室川及びＪＲに寸断された、上郡町集落間の交流・連携が、道路整備により強化される。 ・上郡町及び地元自治会からの、早期整備の要望がある。 ・上郡町総合計画に整備計画が位置づけられている。
(2)有効性・効率性 有効性 代替性 効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・本線は、上郡町役場・ＪＲ駅の拠点となる施設へのアクセスが図れる重要な南北幹線道であり、上郡町と赤穂市を結ぶ最短な路線のため、地域の発展を支える道路となる。 (B / C = 1 . 6) ・現道は、ＪＲ踏切箇所があり、周辺では住宅が密集している。道路網及び地形的要因からも都市計画道路に位置づけされた、バイパス整備が最適である。 ・竹万土地区画整理事業による街づくりに地元の機運が高まっている。また、周辺幹線道路の整備を計画的に進めており、早期事業効果が得られる ・用地取得の面では、既に上郡町の協力体制が整っている。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・通過交通がバイパスに転換することにより、現道沿い集落の生活環境の改善が図られる。 ・橋梁は耐候性鋼材を使用することで、塗装の塗り替えが不要となり環境保全に寄与する。 ・道路法面には周辺植生に配慮した緑化を図る。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・竹万土地区画整理事業では、計画的に道路整備が進められており、平成18年度に完成予定である。また、地区外においても、関連する幹線道路(県道)も整備が進められていることから、関連事業の進捗に合わせて平成16年度より事業着手する。